

再生に取り組む

新桂沢ダム



6月15日、三笠市内の小学生が工事現場を訪れダムについて学んだ。詳しく工事の内容を説明する副長の熊谷彰浩さん。ダムの仕組みや働きが分かったかな

表紙：小学生から一般の方まで見学の希望が多い新桂沢ダムの工事現場。出来るだけ見学の機会を設けている

目次：少しずつ高くなっていく堤体をするする下る建設作業員の動きがリズムカルだ

裏表紙：秋くらいまで、精力的に夜間工事も実施中

山の土砂を利用して、工事に必要なコンクリートを作る。この設備は工事完了後、撤去される



5月13日、幾春別川ダム建設事業所では「みかさ梅まつり」にブースを設け、同所の三上達也さん(右)と安田昌弘さん(中央)が、ダム建設事業をPR、ダム見学ツアーを実施した

桂沢ダムの嵩(かさ)上げと奔別川に新たに建設する三笠ぼんべつダムにより、流域の安全を守り、広い地域に水を供給する「幾春別川総合開発事業」が進行中です。

北海道の直轄多目的ダム第1号として幾春別川に桂沢ダムが完成したのは、昭和32年のことでした。それから60年、この桂沢ダムでは現在求められている治水・利水の機能を満足できないため、ダムの嵩上げ工事が始まりました。堤体を11.9m高い75.5mとし(約1.2倍)、貯水容量を約1.6倍に増大させる工事です。

また、ユーモラスなティラノサウルスが見守る桂沢湖は、道立自然公園にも指定されています。周辺では、アンモナイトや二枚貝などの化石がたくさん発見され、三笠市立博物館に展示されています。是非、美しい自然と歴史を実感しに訪れてみませんか。